



上川井だより

令和5年10月31日
横浜市立上川井小学校
校長 山崎 真紀子

11月号

日本代表チームの活躍に学ぶ

副校長 荒海 透

2023年は春からスポーツ界における日本代表チームの活躍が日本中を熱く、興奮させました。大谷選手の大活躍が光ったWBC日本代表チームの世界一、48年ぶりとなる男子バスケットボールの自力でのオリンピック出場決定、バレーボールネーションズリーグでの男子日本代表の46年ぶりの国際大会表彰台（銅メダル）、その他にもサッカー日本代表が強豪ドイツに快勝したり、ラグビーワールドカップで日本が活躍したりと本当に目覚ましい活躍に心躍る一年でした。

少し前までは日本代表が世界トップレベルで活躍するスポーツと言えば水泳や柔道、体操などが挙げられたと思います。どうしても体型的に恵まれているとはいえない日本にとって、身長が大きく左右するスポーツや体が直接ぶつかり合うようなスポーツは、世界トップレベルの国との差は大きく開いていました。それがここ最近の様々なスポーツにおける日本代表チームの活躍を見ると、その差は驚くほど縮まっていることを実感します。その要因は一体何でしょうか。

その一つは「広く世界に学ぶ」という姿勢の変化ではないでしょうか。日本の有力選手が世界に活躍の場を求めて海外に渡り、そこで多くのことを学び、そして日本代表チームにそれを持ち帰る。また、海外の指導者を積極的に受け入れ、これまでとは違った新しい戦術や練習方法、考え方などを吸収していったことは大きな変化だったはずで、事実、最初に述べた今年活躍が見られた日本代表チームには、海外から招いた監督やコーチが多く見られました。

そして二つ目として、心の整え方の変化を感じます。活躍を続ける日本代表チームには共通点があるように感じます。監督やコーチ、選手のインタビューに耳を傾けると同じ言葉が繰り返されます。その言葉とは「信じる」です。「今までの厳しい練習で培った自分たちやチームの力を『信じる』」「共に戦い、切磋琢磨し、支え合ってきた仲間を『信じる』」「誰よりも強い思いをもち、練習に励んできた自分を『信じる』・・・」

そこには、世界一の実力と技をもつ一流のアスリートであっても、いかに精神面、心の強さ、思いの強さが影響するか、ということを物語っているように思います。

さて、上川井小学校では後期が始まり、3週間ほど経ったところです。前期のあゆみなどをもとに振り返りを行い、後期のめあてを考え、次の学年へと向かってスタートしたばかりです。

日本代表選手のような力と技はなくても、自分のめあての達成に向けて周りのあらゆる人から謙虚に学び、それを活かしてあきらめずに、粘り強く努力することはできるはずで、そしてお互いに認め合うことで一人一人のよさや力を伸ばしてくれるクラス、チームの絆を「信じる」辛いことや困難なことに遭っても、励ましの声をかけ、手を差し伸べてくれる仲間の心を「信じる」自分が立てた目標、目指す姿に向かってあきらめずに、我慢強く努力を続ける自分の力を「信じる」

3月までには、挫折しそうになることもあるでしょう。もちろん簡単ではありませんが、子どもたち一人一人の成長を信じて、支援を続けていきたいと思えます。